

[成果情報名] トマト促成栽培におけるシルバーリーフコナジラミの発生推移と黄化葉巻病の感染時期

[要約] トマト促成栽培において、シルバーリーフコナジラミおよび黄化葉巻病は主に育苗期後半から生育初期に発生することから、本病の主な感染時期は育苗期から定植直後である。

[キーワード] トマト、促成栽培、シルバーリーフコナジラミ、黄化葉巻病、感染時期

[担当] 総合農林試験場・環境部・病害虫科

[連絡先] 電話0957-26-3330、電子メールyogawa@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 野菜（生産環境）

[分類] 指導

[背景・ねらい]

トマト黄化葉巻病はTomato yellow leaf curl virus(TYLCV)を病原とするウイルス病で、本ウイルスに感染したトマトは新葉が黄化、萎縮して生長が止まり、着果不良になるため、長期間栽培を行う促成栽培で大きな被害を与えている。本ウイルスは侵入害虫であるシルバーリーフコナジラミによって媒介されるが、国内における生態は未解明の点が多く、本病の防除対策を講ずる上ではこれらの発生活長を知ることが重要である。これまでに、本県ではシルバーリーフコナジラミは夏期に発生が多く、10月以降減少することが概ね明らかになっている（ながさき普及技術情報第21号、2002）が、生育ステージと防除時期との関係を明らかにするため、促成栽培の主要な時期において、本病とシルバーリーフコナジラミの発生活長を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 . トマト促成栽培では、オンシツコナジラミとシルバーリーフコナジラミの2種のコナジラミが発生するが、生育初期における優占種はシルバーリーフコナジラミである。本種は定植直後からトマトへ寄生するが、それ以後薬剤防除等によって密度が低下する(図1)。
- 2 . 10月中下旬定植のトマト促成栽培において、黄化葉巻病は育苗期後半から発生し始め、本圃での生育初期に急増する(図2)。
- 3 . これらの発生活長および本ウイルスの潜伏期間(約10日~35日)から、トマト促成栽培における本病の主な感染時期は、育苗期から定植直後である。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 主な感染時期と推測された育苗期から定植直後にかけて、本病の発生の恐れがある地域では、粒剤の鉢上げ時および育苗期後半処理を中心とした薬剤防除を行うとともに、媒介虫の密度や保毒虫率を下げするため、本病の伝染源や媒介虫の増殖源の除去、苗床および本圃への媒介虫の侵入防止等、総合的な防除対策を講ずる必要がある。

[具体的データ]

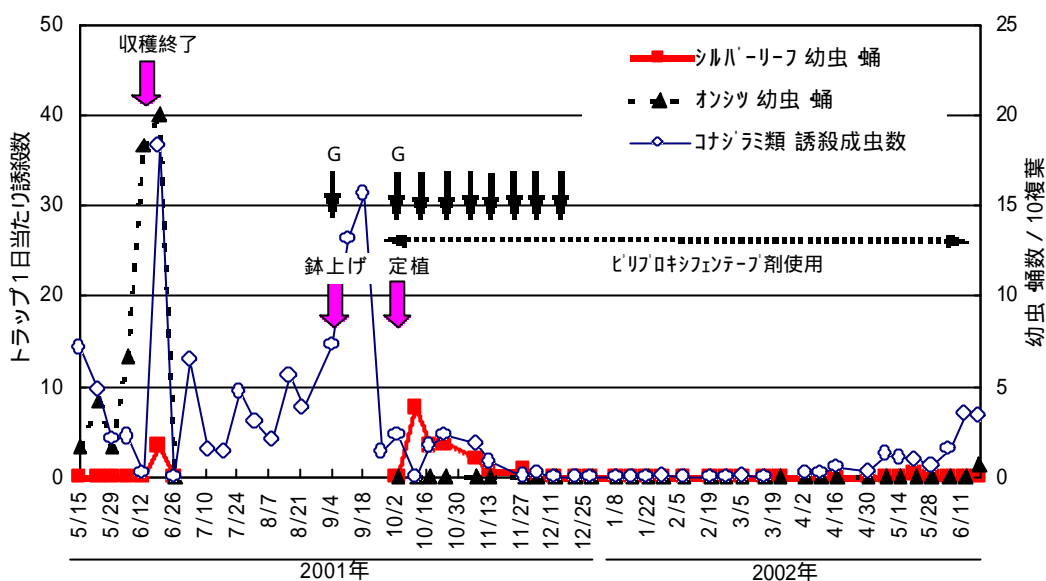


図1 トマト黄化葉巻病発生圃場におけるコナジラミ類の発生推移

殺虫剤使用 G 粒剤施用

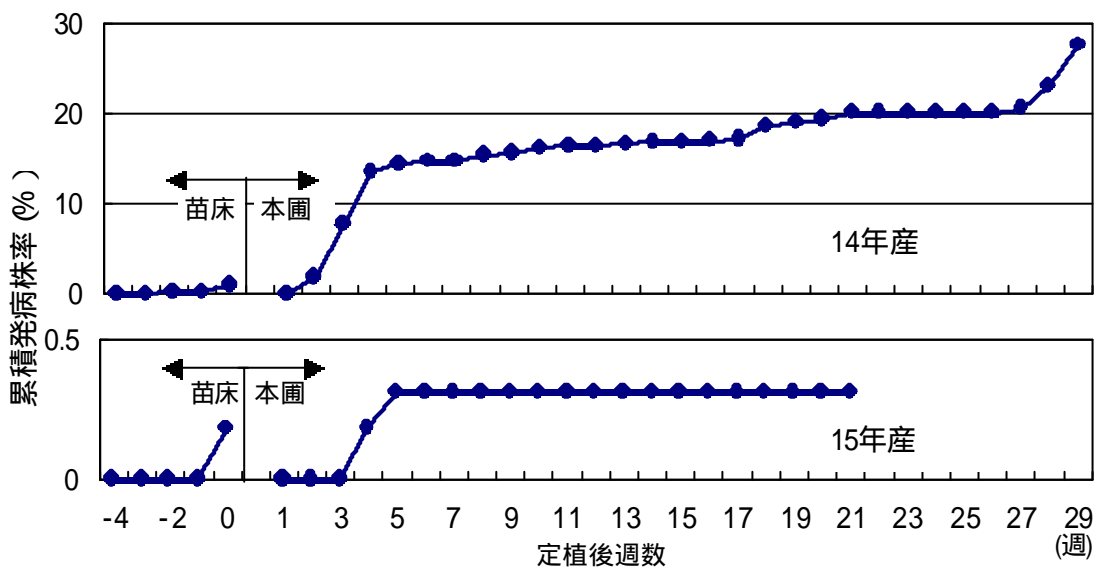


図2 トマト黄化葉巻病発生圃場における累積発病株率の推移

14年産： 鉢上げ 2001年9月4日、定植 10月10日

15年産： 鉢上げ 2002年9月26日、定植 10月27日

[その他]

研究課題名：トマト黄化葉巻病の防除技術確立

予算区分：国庫（地域新技術）

研究期間：2001～2003年度

研究担当者：小川恭弘、内川敬介